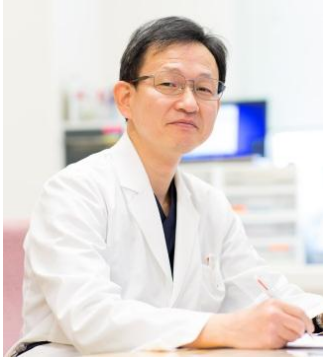


就任の挨拶

7月より診療体制の変更を行い、空席となっていた副院長の就任と、救急科の新設を致しました。

副院長ならびに救急部長よりご挨拶をさせていただきます。



副院長 循環器 中村正直

副院長 中村 正直
日本循環器学会専門医
日本外科学会認定医

2000年1月から井上病院に勤務して、約20年になろうとしています。あっという間に過ぎていった感じです。この間循環器疾患を中心に、こつこつと患者さんに向き合ってきました。今回副院長という大役に任命していただきましたが、その責任の重大さを痛感しております。

循環器内科医師として治療にあたっておりますが、高血圧など単に血圧が高いという病態だけではなく、放置すると、慢性腎臓病、脳血管障害、心不全などを起こしてきます。症状がないから大丈夫ではなく、高血圧の後ろに潜んでいる疾患に対しても、早め早めの介入が必要と考えます。

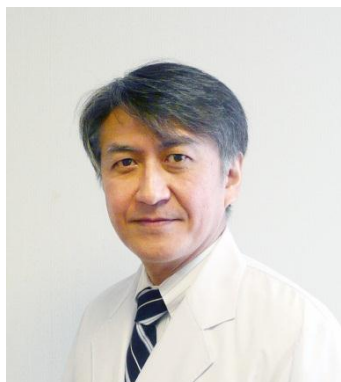
診断や治療に関する基準が色々なエビデンスを基に、数年毎に少しずつ見直されている現状です。

循環器領域の問題の1つとして、心不全患者数は年々増えてきています。特に高齢者に発症が多く、2025年問題は心不全にも関わっています。循環器学会は心不全の定義を一般向けにわかりやすく説明しています。「心不全とは、心臓が悪いために息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気です」と。癌とは病態は違いますが、心不全は慢性化しやすく入退院を繰り返すようになると、悪化していき予後の悪い疾患とも言えます。

こういったこともあり、ここ数年前から心不全でもACP (Advance care planning) という言葉が言われています。患者さんと家族が、医療・介護従事者と一緒に、現在の病気だけでなく、今後の出てくる可能性のある意志決定能力低下に備えて、あらかじめ終末期を含めた今後の医療や介護、患者さんの思いについて、事前に話し合います。また、意志決定が出来なくなった時に備えて、本人に代わって意志決定する人を決めておくプロセスです。よって、最初に決めたことは最終決定ではありません。その時その時の病状、心身の状態の変化などにより、本人の意志は変わりますので、その都度話し合いながら決めていきます。

ACPを理解し遂行していくに当たり、多職種協働は必要になります。周囲の病院、医院、訪問看護、各施設等々の協力なしでは、心不全患者さんとそのACPに対しての対応は難しいと思われまます。まだ社会的にも若輩者であります。患者さんの回復、日常生活への復帰のために、微力ではありますが、一生懸命に頑張っていきたいと思っております。

循環器内科
中村 正直



救急部長 外科 中塚 昭男
 日本救急医学会救急科専門医
 日本外傷学会外傷専門医
 日本外科学会外科専門医

2019年7月より、救急科を標榜することとなり、部長職を拝命しました中塚昭男です。よろしくお願いいたします。

井上病院に勤務する前は、大型の救命救急センターで救急医として13年間の勤務経験があり、1日20台以上の救急車対応など、軽症から重症までのあらゆる疾患の初期診療に携わってきました。

救急科といっても馴染みが少ないと思われませんが、救急車で搬送される患者さま、歩いて受診される患者さまの中で看護師のトリアージ(緊急度・重症度判定)により緊急で処置が必要とされる患者さまの初期診療を行います。

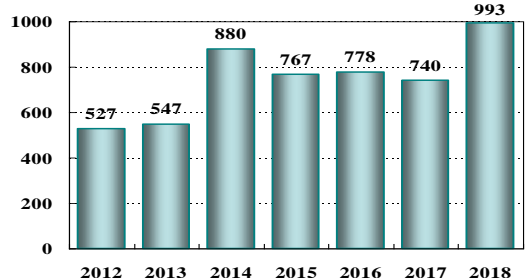
内科・外科系を問わず全ての疾患の初期診療に対応します。救急車も産科疾患、小児(小学生以下)の内因性疾患以外は、全例受け入れています(初期対応であれば、産科、小児科も可能です)。

当院にはトレーニングを受けた救急専任看護師が数名おり、他医師やレントゲン技師、検査技師、MSWなどの協力もあり、迅速かつ質の高い初期診療を提供しています。初期診療を行った後、対応可能な限り当院で入院加療を引き続き行います。

また、これまでの経験より、福岡市の高次医療機関の救急スタッフとも交流があり、当院で対応困難な症例は、最も適切な医療機関を紹介させていただきます。

現在、糸島市には救急車が4台しかありません。糸島市の救急車の管外搬送(糸島市以外の病院に救急搬送する)率は40%以上と非常に高くなっています。みなさんが救急車を呼んでも、半数近くが糸島市以外の病院へ搬送されていることとなります。また、管外搬送により救急車が遠方まで出動することで、次の出動までに時間がかかることになり、みなさんが119番通報しても、救急車が到着する時間がかかり遅くなってしまいます。この管外搬送率を少しでも減少させるべく、勤務中は救急隊からの要請は全例受け入れています。

図1)救急車搬入件数の推移(件/年)



救急搬送件数は、図1のように2014年に赴任してから増加しており、特に井上病院の特性を活かし、外傷患者の受け入れが多くなっています。

現在、救急科は私一人であり、外科診療との兼任のため、平日の8:00~19:00までの対応しかできませんが、今後、救急車搬送件数が増加していけば、スタッフの増員も検討していきたいと思えます。

「糸島市の救急医療はできるだけ糸島市で」をモットーに、糸島市に住む人が安心して生活できるような救急医療体制を構築していきたいと思えます。

救急科 外科
 中塚 昭男